ニュース学童保育

=私たちの活動 4つの柱=
*制度化と指導員の身分保障
*専門性と仕事の確立
*父母と共に学童保育運動の発展
*全国の指導員との団結と連帯

春日市

非公募から 公募へ

春日市の学童保育は40数年前、父母の自主運営から始まり5クラブで連絡協議会を結成、その後連合会を立ち上げて全クラブ合同運営を経、NPO法人に移行してから13年。子どもたちや保護者の願いのもと、充実した学童保育へと成長しながら、多くの市民の手で運営されてきました。

一方で2006年度から指定管理者制度が導入され、前回は非公募でしたが今年度は指定期間の5年目で公募となりました。

陳情、請願など 保護者と共同 の取り組み

春日市による選定の結果、NPO法人は点数が

民間企業が指定管理者に

ほんのわずか下回ったため(株)テノ・サポートが候補者となりました。

8月半ばにその通知を受けた後、9月議会に向け、保護者会、春日分会それぞれで春日市議会に対して請願書を提出し、また複数のクラブから陳情書も出されました。

組合員以外の支援員にも呼びかけ、請願参考人質問や議会の傍聴、議会報告会、市長トークなどに保護者とともに参加して議員や行政に直接意見を言う事など、今できることをやるうと動きました。

しかし9月議会において2つの請願は否決され、来年度からの指定管理者は(株)テノ・サポートに変更されることが決まりました。

それでもまだあきらめずに、これまで春日で作りに上げてきた保育内容の

堅持とそれを実践する支援員の継続雇用について、(株)テノ・サポートや春日市に訴えていこうと話し合い、支援員たちに組合への加入を訴えました。

運動の輪を 広げる

これまでに1名の加入と、3名から加入意思の確認をもちっています。

9月15日に行われた福岡県本部大会では、春日分会からの発言に会場から大きな拍手と、最後に県本部の皆さんからの「頑張れ!!」の寄せ書きを頂きました。

10月23日に行われた職員向け説明会で提示された保育内容や支援員の処遇は、これまでのNPO法人とは大きく異なるものでした。

保育の説明は、(株)

テノ・コーポレーションが「保育の柱」として売りに

している、毎日子ども全員参加による五色百人一首の取り組みのことに終始し、支援員はリーダー(クラブの責任者)も含めて1千円前後の時給制で、勤務時間は下校時間の1時間〜30分前という不安定極まりないものでした。

保護者から、 怒りの声

参加者からの質問時間は30分程度しかなく、それで10月末までに継続雇用を希望するかどうかの意思確認アンケートを提出するようにとのことでしたので、支援員からは一斉に反発の声が挙がりました。

支援員の中には失望感が広がり、このままでは多くの主任をはじめ支援員が職を失うことになりました。

10月29日、11月2日の保護者向け説明会では、支援員配置数の減少のことや、雇用は継続したいと言っている一方で処遇の大幅な後退について、春日市の責任を問う声や(株)テノ・コーポレーションに対しての意見が相次ぎました。

今、保護者会と支援員で共同し、12月議会提出を目指して春日市長に対しての請願署名に取り組んでいます。

今後は春日分会としても、県本部の援助を受けながら春日市とNPO法人に対して交渉を行っていきます。

しかし組合員も日々悩み、葛藤しています。子どもたちや保護者の「支援員の先生たちみんな辞めないで!」の声と、そのため動いてくださっていることに支えられながら頑張っています。

ぜひ全国の皆様からのご支援、よろしくお願いたします。

(福岡支部 阿部亮子)